

# 新河岸川



## 水門と旧荒川をたどる

埼玉県川越市の西部を源とし、武蔵野地帯を流れる柳瀬川や黒目川、白子川などの支流を集め、北区の岩淵水門付近で隅田川に合流している全長35km(東京都管理区間約9km)の河川です。

明治43年(1910)の大洪水を契機に荒川の大改修が行われ、新河岸川もこの改修工事に合わせ、大正9年(1920)より開削工事を実施し現在の流路形状になりました。

高水敷や入江などを活用した緑地や緑道が整備され、水上バスが運行されるなど、人々のいこいの場となっています。

**● スタート**  
都営地下鉄三田線「西台駅」

**● ④ 浮間橋の碑**  
JR 埼京線「北赤羽駅」

**● ゴール**  
東京メトロ南北線「赤羽岩淵駅」、  
JR 宇都宮線、高崎線、上野東京ライン、湘南新宿ライン、  
京浜東北線、埼京線「赤羽駅」

**距離：約8.5km 歩数：約12,140歩  
所要時間：約2時間8分  
消費カロリー：約384kcal**

**① 舟渡水辺公園**

荒川の蛇行跡が残る親水公園。隣接する舟渡大橋はアーチ形の二重構造になっており、上は車道、下が歩道になっている。

**② 浮間の渡船場跡**

昭和3年(1928)に浮間橋ができるまでであった渡船場跡。供養塔や水神宮の石祠が当時の面影を忍ばせている。

**⑤ 音無緩水公園(日本の都市公園100選)**

石神井川は、この付近では音無川と呼ばれていた。飛鳥山の分水路の整備によって残された流路跡は親水公園になっており、春は桜、夏は水遊びで賑わう。「名所江戸百景 王子音無川 壩世谷大滝下唱」歌川広重(国立国会図書館)

**④ 浮間橋の碑**

大正期の改修工事で、荒川と新河岸川に挟まれてしまった浮間地域の人々が、近くに駐屯していた近衛師団工兵隊へ架橋を依頼し、昭和3年(1928)に木造の橋が架かったことを記念した石碑。

荒川の改修により、浮間地区は1928年に埼玉県から東京府(当時)に編入された。

天気の良い日は上流側に富士山が見える

**⑥ 小豆沢河岸広場**

平将門の時代、小豆を積んだ船が沈んだことから名付られたと伝えられ、昔から水上交いの場として栄えていた。場にも、現在では水上バスの発着場になっており、葛西臨海公園を不定期で結んでいる。

**⑦ 旧岩淵水門(赤水門)**

荒川放水路の開削に伴い、洪水時、隅田川への流入を調整するため大正13年(1924)に造られた水門(赤水門)。昭和3年(1928)からは、旧水門から下流約300mに作られた清水門が稼働している。

**⑧ 岩淵の渡船場跡**

江戸時代、日光御成道の岩淵宿から川口宿へ向かうための渡船場があった場所。将軍が通行する際や、川口の善光寺が御開帳で参拝者が賑わう時期には船橋が架けられていた。「江戸名所百景 川口のわかし」歌川広重(国立国会図書館)

**⑨ 荒川知水資料館(アモア)**

荒川の upstream から河口までの解説や、放水路が誕生した経緯、洪水時の浸水シミュレーションなどの展示室がある。3階のテラスからは荒川河川敷が一望できる。

**③ 北とびあ**

最上階の無料展望ロビーからは、王子駅北側の流路跡や、隅田川、荒川も一望できる。

**⑧ 音無もみじ緑地**

この付近は音無溪谷と呼ばれていたところ。八代将軍徳川吉宗によって植樹され、紅葉の名所として知られていた。周辺には、蛇行していた旧河道を利用して公園や緑道が点在している。「江戸名所百景 王子瀧の川」歌川広重(国立国会図書館)

**⑨ 飛鳥山分水路**

かつて王子駅付近では、川幅が狭く蛇行していたことから浸水被害が頻発していた。駅周辺の水害の早期解消のため、飛鳥山の下に2本のトンネルで分水路を整備し、本川に合流させている。

**① 中山道と板橋宿**

「板橋」の地名の由来になった橋。現在の橋は昭和47年(1972)に建造されたもの。江戸時代、橋の南北に板橋宿が置かれ、中山道の日本橋から数えて1つめの宿場町として栄えた。

**② 火薬製造所跡(庄磨機圧輪記念碑)**

明治から終戦までこの界隈一帯には陸軍の火薬工場があり、現在でも周辺には遺構が数多く残る。加賀西公園には、石神井川の水流を利用して黒色火薬の製造に使われた庄磨機圧輪が、記念碑として残されている。

**③ 加賀公園・加賀藩前田家下屋敷跡**

江戸最大の面積を誇った加賀藩下屋敷があった場所。邸内に石神井川が流れ、当時の薬山の一部は今でも加賀公園内に残っている。

**⑥ 洋紙発祥の碑**

王子は、渋沢栄一が明治5年(1872)に日本初の製紙工場を建てた場所。石神井川から荒川(現在の隅田川)へ物資を船で運搬できる便利さや、豊富な水源があることから、この地が選ばれた。

# 石神井川



## 錦絵の風景と日本近代化への軌跡

小平市内の小金井ゴルフ場付近に源を発し、三方池などの湧水を含み、飛鳥山トンネルを流下してJR 京浜東北線王子駅の東側で隅田川に合流している全長約25kmの河川です。

その昔、王子付近は音無溪谷と呼ばれ、歌川広重の錦絵などにも多く描かれる江戸の名所となりました。また石神井川は、大名屋敷の庭園に取り組まれるなど景観面での役割から、明治になると軍の火薬工場や、製紙工場などの運用にも利用された歴史があります。

北区、板橋区を中心に旧河道を活用した広場や緑地、公園が整備され、川沿いには桜などの樹木が植えられるなど、快適な散歩コースとなっています。

**● スタート**  
東武東上線「中板橋駅」

**● ③ 加賀公園**  
都営地下鉄三田線「新板橋駅」

**● ゴール**  
JR 京浜東北線、東京メトロ南北線「王子駅」、  
都電荒川線「王子駅前」

**距離：約5.5km 歩数：約7,860歩  
所要時間：約1時間23分  
消費カロリー：約249kcal**